

経済マンスリー [米国]

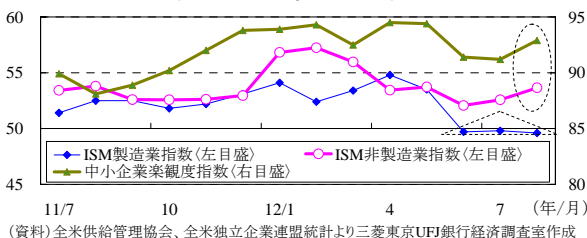
～小康状態ながら、気懸りな製造業の低迷～

米国景気は 4-6 月期に減速した後、足元では小康状態にある。海外経済の軟化等を受けて製造業の経済活動が引き続き冴えない一方、内需の影響を受けやすい非製造業では回復が持続しており、二極化がみられている。例えば、企業景況感をみると、8 月の ISM 非製造業指数は 53.7 と 2 ヶ月連続で上昇し、宿泊・食品サービス、小売、電気・ガスなどを中心に改善が続いた。加えて、主に内需の影響を受けると考えられる中小企業の景況感も、足元で持ち直しがみられる。他方、同月の ISM 製造業指数は 49.6 と、拡大・縮小の境目となる 50 を 3 ヶ月連続で下回っている (第 1 図)。業種別には、コンピューター・電子機器、非金属鉱物製品、輸送用機械などで、このところの低迷が顕著だ。雇用動向についても構図は同じ。8 月には、サービス業の雇用者数は前月比+11.9 万人と緩やかな増勢を保っているが、製造業の雇用者数は同▲1.5 万人と 11 ヶ月ぶりに減少した (第 2 図)。

米国経済は、住宅市場を中心とした構造調整圧力が依然として残るなか、内需が強固とは言えず、製造業の悪化と乖離した非製造業の回復が、いつまでも続くことは見込みづらい。景気回復の持続には、製造業の早い段階での持ち直しが必要となろう。

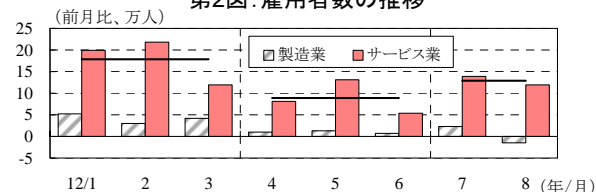
このようななか、FOMC は今月半ばの定例会合で金融緩和の追加策を決定した。具体的には、MBS (住宅ローン担保証券) を毎月 400 億ドルのペースで買い入れること (いわゆる QE3) および「異例の低金利が正当化される公算が高い」とする時間軸の「2014 年終盤」から「2015 年半ば」への延長。前者の MBS 買い入れは、過去の資産買い入れ (QE1、QE2) と比べるとやや小規模だが (第 1 表)、買い入れ期間を「経済動向次第」とし、総額も定めなかったことで、“無制限”との解釈も可能にし、先行きの緩和期待を大幅に強める内容である。追加緩和の副作用に配慮しつつ、現段階で出来る最大限の政策を打ち出した印象であり、FRB の景気・雇用情勢への懸念の強さが改めて確認された。

第1図: 企業景況感の推移



(資料) 全米供給管理協会、全米独立企業連盟統計より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

第2図: 雇用者数の推移



(資料) 米国労働省統計より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

第1表: FRBの資産購入状況

	総額		月あたり購入額	
	国債	MBS	国債	MBS
QE1 2008年11月~2010年3月	3,000	12,500	500	1,000
QE2 2010年11月~2011年6月	6,000	-	750	-
オペレーションツイスト 2011年9月~2012年12月	6,670	-	400	-
QE3 2012年9月~	-	?	-	400
①FRB保有額	16,508	8,437	-	-
②市中発行額	92,469	75,417	-	-
①÷②	18%	11%	-	-

(注) 1. 『月あたり購入額』は、当室概算。
 2. 『FRB保有額』は9月7日時点、『市中発行額』は6月末時点の残高。
 うち、『国債』は期間1年以上の合計、『MBS』(住宅ローン担保証券)はエージェンシーの発行分のみ。
 (資料) FRB資料・統計、Bloombergより三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

照会先：三菱東京 UFJ 銀行 経済調査室 石丸 康宏 yasuhiko_ishimaru@mufg.jp
栗原 浩史 hiroschi_2_kurihara@mufg.jp
前原 佑香 yuka_maehara@mufg.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の販売や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当室はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。また、当資料全文は、弊社ホームページでもご覧いただけます。